

## オレゴン州：小麦作柄と気象状況

### 2011年6月5日現在

**概況** オレゴン州の2011年6月5日に終わる1週間の気象は、前週の終わりに初夏の気象となったが、その後再び低温・湿潤気象となった。Willamette Valleyの最高気温は1日のみ80~85度Fを記録したが、その後低温・湿潤気象となった。1週間の降水量は0.51~1.23インチであった。NC地区の最高気温は76~84度Fの日が1日あったが、最低気温は33~41度Fであり、平均気温は平年を1~6度F下回った。1週間の降水量は0.11~0.89インチであった。NC地区の低温・湿潤気象は1960年代以来の現象とのことであった。NC地区の昨年9月1日からの積算降水量は、Pendletonで16.62インチで平年の156%、Moroでは14.29インチで平年の145%であった。Union郡では多雨と雪解けとで河川の氾濫が心配されていた。1週間の州平均農作業稼働日数は3.8日(前週:4.0日)であった。Topsoilの壌水分は、前週より“Surplus”が増加し、Subsoilでは“Short”が減少した。Willamette Valleyの冬小麦が出穂を開始した。各地の冬小麦にStrip rust(黄さび病)の発生が見られ農家は晴れ間に薬剤散布(航空機からの)を実施していた。開花まで薬剤散布が行なわれる。Flag leaf(止葉)がRustに冒されると穂の生育が悪くなり、単収が激減する。湿潤下では雑草も多くなる。冬小麦の生育は昨年の10日遅れと言われ、全州の50%(昨年:75%、5年平均:78%)が出穂した。冬小麦の作柄は昨年より良好であるが、前週より多少落ちた。春小麦は全州の圃場の96%(昨年:100%、5年平均:99%)にて出芽した。春小麦の作柄報告は無かった。小麦の順調な生育の為、気温の上昇が望まれた。

#### 2011年6月5日現在：土壌水分(\*)

		(%)	Very short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil	This week		0	1	73	26
	Last week		0	2	79	19
Subsoil	This week		0	2	76	22
	Last week		0	3	74	23

#### 2011年6月5日現在：冬小麦の生育状況(\*)

(%)	This week	Last week	Last year	5-Yr. Average
Headed	50	31	75	78

#### 2011年6月5日現在：冬小麦の作柄状況(\*)

(%)	Very poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This week	1	2	24	49	24
Last week	1	1	24	50	24
Last year	1	7	25	54	13

#### 2011年6月5日現在：春小麦の生育状況(\*)

(%)	This week	Last week	Last year	5-Yr. Average
Emerged	96	84	100	99

\*) Source: National Agricultural Statistic Service, USDA-Oregon Field Office. 5-yr average means average of 2006,2007,2008,2009 and 2010 crop years

以上